

アフリカ統一機構（ＯＡＵ）/アフリカ連合（ＡＵ）５０周年に際した 安倍総理メッセージ

ハイレマリアム・デサレンＡＵ総会議長、
ヌコサザナ・クラリス・ドラミニ＝ズマＡＵ委員会委員長、
ＡＵ加盟国元首・代表団長の皆様、

（ＯＡＵ／ＡＵ５０周年）

アフリカ統一機構（ＯＡＵ）/アフリカ連合（ＡＵ）５０周年に当たり、心からお祝い申し上げます。

冷戦のただ中にあった１９６３年、植民地化という長く辛い歴史を乗り越え、ようやく独立を手にしたアフリカ各国は、新しい時代を築くに当たり、団結と連帯という道を選びました。その決断は、独立後も、国際社会の荒波の中で紛争や貧困等多くの課題に直面したアフリカに、困難を乗り越え、前に進むために必要な力と知恵を与えました。団結と連帯は何よりも強く確かな力を生みます。「和」を尊び、「団結」を発展の原動力としてきた歴史を有する我が国は、そのことを誰よりもよく理解するものです。半世紀前、エチオピアの地で偉大な決断をしたアフリカの先人達、そしてその伝統を今日まで脈々と受け継いできたアフリカのリーダー達に心から敬意を表します。

それから半世紀が経ちました。団結と連帯の精神の下、幾多の困難を乗り越え、たゆみない歩みを続けてきたアフリカは今、世界中のどの大陸よりもエネルギーに溢れ、輝かしい未来への確信を有する大陸となり、世界に活力と希望を与えています。そして、ＯＡＵ／ＡＵは、時代に合わせてその役割を変化させつつ、新たな時代のアフリカをリードするアフリカの核へと成長しました。明るい光に満ちた、世界の希望の源として、新たな出発を果たそうとしている頼もしいアフリカの姿を、アフリカと共に歩んできた日本として大変嬉しく思います。

（日アフリカ関係）

この半世紀の間、日本は常にアフリカと共にありました。半世紀前、戦後の混乱期を乗り越えた日本は、所得倍增計画を掲げ、国際社会の中での成長を目指していました。この様な中、日本は、１９６６年、アフリカにおける青年海外協力隊の第１号となる隊員をケニアに派遣しました。それから約半世紀、アフリカ全土でこれまでに１万４千人を超える青年海外協力隊及びシニアボランティアが、日本とアフリカの草の根レベルでの交流・協力の象徴として活躍してきました。人と人との直接の交流を大切にする日本の対アフリカ外交の伝統は今日まで続き、日アフリカ間の温かく強固な絆を育ててきました。一昨年、東日本大震災に際し、アフリカ各国から温かい支援とお見舞いを頂いた我が国は、日本とアフリカが長い年月をかけて築いてきたこの絆を実感し、感動しました。そして今、東日本大震災の被災地で７名のアフリカ人の若者がボランティアとして活動し、被災地の人々との交流を深めています。相互扶助の精神に基づく日アフリカ双方向の交流が着実に根付き、花開いていることを嬉しく思います。

2013年はまた、日本がアフリカ諸国と共にアフリカ開発会議（TICAD）プロセスを開始してから20年に当たる年でもあります。「オーナーシップ」と「パートナーシップ」という独自の理念を掲げて、日本とアフリカが協力して育ててきたTICADプロセスが、アフリカ開発に関する世界最大級の国際フォーラムとして成長したことを嬉しく、また誇らしく思います。6月1日から横浜で開催されるTICADVは、このTICADプロセスの20年の歴史、そして約半世紀にわたる日アフリカ関係の歩みを振り返り、躍動するアフリカと共に新たな歴史の扉を開くのにふさわしい場であると確信します。新しい時代に、我々は、先人達がもたらしてくれたこのアフリカの果てしないエネルギーをアフリカと世界の更なる成長につなげていく責務があります。世界の原動力たるアフリカ元首の皆様とアフリカと世界の未来につき真剣な議論を交わし、更なる成長に向けた力強い決意のメッセージを国際社会に伝えられることを楽しみにしております。

「アフリカの水を飲んだ者は再びアフリカに戻る」という言葉があります。私が最後にアフリカを訪れて以来、10年余りの時を越え、大きく飛躍した希望の大陸、アフリカを再び訪問できることを心から願っています。

平成25年5月25日
日本国内閣総理大臣
安倍晋三

（了）